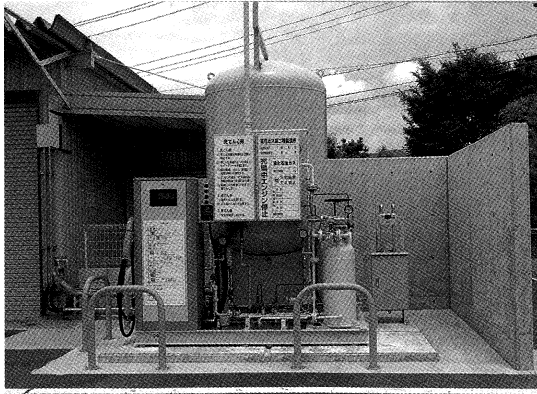


# カグラバーパーテック

## プロパン車用簡易スタンドの営業強化

### 災害時の燃料拠点としても機能

LPガスバーライザー首位メーカーのカグラバーパーテック（兵庫県尼崎市、玉井健一社長）は、プロパンガス自動車向けの簡易充填スタンドの営業活動に注力している。LPガスを燃料とする自動車といえばボタンが主成分のオートガスが主流だが、同社の場合は充填拠点の多さや災害対策といった観点から、家庭用と同じプロパンへの燃転を提案しているのが特徴だ。



【オートコンポ】

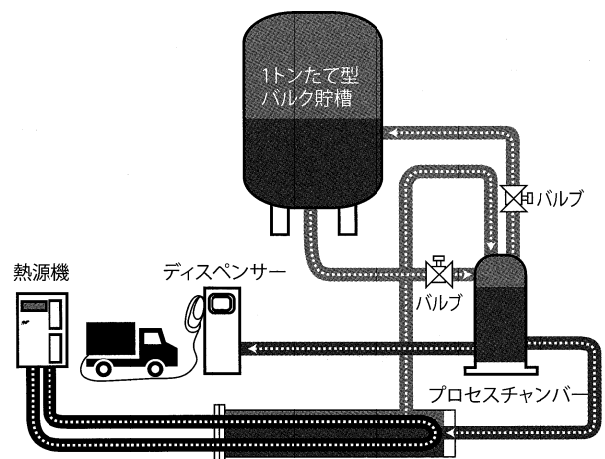
オートガスはボタン70〜90%、プロパン10〜30%の比率で混合された自動車燃料専用のLPガスである。充填用スタンドの拠点数は1990年代に全国で約1900ヶ所とピークを迎えたが、維持管理コスト等の面から撤退する事業者も現れ、現在では約1500ヶ所にまで減少している。

そこで同社は、全国2200ヶ所に充填所があり、非常用発電機等、災害時のバックアップにも活用できる家庭用プロパンに着目。名古屋の自動車整備会社、位田モーターズ（位田幸司社長）とタッグを組み、主に社用車を20台以上所有する企業向けに、ガソリン車からプロパン+ガソリンのバイフューエル車への燃転、および自家用スタンドの導入を訴えている。カグラバーパーテックが充填設備の設置、位田モーターズが車両の改造を担い、05年の発売開始以来、全国で累計80件の納入実績を上げていく。

### 1ユーザー年間40tのプロパン需要

LPガススタンドには、主にガス事業者が運営し、タクシー等にガスを販売する一般スタンドと、タクシー会社等が自社の車両に充填するため所有する簡易スタンドがある。高圧ガス保安法上、前者は第1種、後者は第2種製造区分に分類されており、カグラバーパーテックが展開するスタンド『オートコンポ』は後者にあたる。ちなみに、発売当初は簡易スタンドに関する法制度が未整備であり、行政側との度重なる折衝の末、12年によく省令改正を実現、簡易スタンドの定義を認定された経緯がある。

一般的な簡易スタンドにはボタンとプロパンのタンクがそれぞれ設置されており、プロパンのタンク内にプロパンガスを注入し、ボタンの液面を加圧することで自動車へ充填する。一方、『オートコンポ』は、タンクからバッファード



オートコンポの作動原理

のプロセスチャンバーに液化ガスを移すと同時に、一部の液化ガスを取り出し蒸発器で気化してからプロセスチャンバーに注入、液面を加圧して充填する仕組み。加圧用のガスとタンクを必要としないため、省スペース化も図れるという。

同製品にはオートガス用とプロパン用の両方がラインナップされているが、同社がより積極的にPRしているのがプロパン仕様だ。特に自動車教習所やタクシー会社以外に、営業・業務用車両を多数保有する一般企業を顧客とし

ているLPガス事業者への営業を強化している。同社営業担当者は「社用車としてハイエースを20台所有し、月間走行距離が3000kmに達するユーザーがプロパンへ燃転した場合、年間40tもの新規ガス需要が生まれる計算になる。ガス事業者さんにとつては、新規ユーザー獲得の手段としても『オートコンポ』が役立つのでは」と話す。

さらに、停電時や災害時のBCP対策にもなるのがプロパンの強みだ。「LPガス発電機が使えるのはもちろんですが、オプシオンの非常用ガス栓BOXを設置すると暖房や炊き出しも可能になります。経産省の災害対策用バルク設置補助金を活用し、設置費用を実質6割にまで抑えられたケースも。災害が多発する時勢だからこそ、ぜひ導入を検討いただきたい」（同社担当者）。